

I 研究の概要



I. 研究の概要

1. 研究主題

自ら問いを持つ子供の育成

～見方・考え方をいかして資質・能力を高める授業づくり～

2. 主題設定の理由

(1) 社会的な要請から

平成 29 年 6 月、文部科学省から新学習指導要領（以下、『新 COS』と表記 COS…Course Of Study の略）の解説が公表された。総則編には改訂の経緯が次のように記されている。（以下、囲み部分は引用文）

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

こうした変化の一つとして、人工知能（A I）の飛躍的な進化を挙げることができる。人工知能が自ら知識を概念的に理解し、思考し始めていても言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかとの予測も示されている。このことは同時に、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の

目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっている。

また、学校への要請として、次のように記されている。

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

これらを実現させるために、学校、家庭、地域の関係者が共有・活用できる 6 つの視点が示された。

- ① 「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ② 「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③ 「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤ 「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑥ 「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

「何ができるようになるか」については、育成を目指す資質・能力を明確にするために、3 つの柱に整理された。

〈資質・能力の三つの柱〉

- ① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応で

きる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

「どのように学ぶか」については、アクティブ・ラーニングの視点に立った「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を求めている。「主体的・対話的で深い学び」については、次のように説明されている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が

実現できているか。

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

また、山梨県は、「やまなしスタンダード」（山梨県教育委員会，2016）として、授業づくりの7つの視点を定めている。

- ① 授業の始めに児童生徒に授業のめあて（目標）を示している。
- ② 話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている。
- ③ 児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている。
- ④ 児童生徒は、ノートをとっている。
- ⑤ 活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにしている。
- ⑥ 授業や単元の終わりに、児童生徒がめあて（目標）を達成しているかを評価している。
- ⑦ 家庭学習（宿題や課題）と授業が、有機的に結びついている。

さらに、甲府市では「甲府スタイルの授業」（甲府市教育委員会，2016）として、授業改善の視点（子どもは甲府の宝）を定めている。

こ…子どもの視点に立った見通しと振り返り
う…動き出したくなる課題
ふ…深い教材研究をベースに
の…ノート指導と板書は表裏一体
た…確かな発問
か…学級集団づくりも大切に
ら…ランダムな机間指導から意図的な机間指導へ

甲府市では、今年度「見通しと振り返り」「動き出したくなる課題」「家庭学習」を重点目標に掲げている。本研究でも意識していきたい。

これらは、新 COS で述べられている育成を目指す資質・能力の具現化のために、いずれも大きな指針となるものである。本校では、これらを実現させることを目指して研究を進めていく必要がある。

(2) これまでの研究と本校の実態

一昨年度までの3年間、山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業」の指定を受け、研究主題「自ら学び、考え、表現する子どもの育成 ～改善プランをもとにした、確かな学力を育てる授業づくり～」のもと、算数と理科を中心に研究を進めてきた。PDCA サイクルを意識した授業改善を行った。

昨年度の研究は、新 COS を読み解くことを中心に行った。「育成を目指す資質・能力」について、算数と道徳の授業研究を通してその具体像を探ってきた。資質・能力を身に付けるためには、既習を生かすこと、児童の問いをもとにすること、などの成果が得られた。また、「見方・考え方」については、多様な表現・考えの中から共通点や相違点などを問い、よりよいものを見つけていこうとする姿が見られた。そのためには教師の働きかけ(しかけ)が大切である、との示唆が得られた。

(3) 上記(1)(2)を受けて

今回の学習指導要領改訂でいちばん大切にされているのが、「何ができるようになるか(育成を目指す資質・能力)」の部分である。なかでも大切なのが、自ら問いを持つことであると考え。自分で問題に気づき、その解決の方策を練り、解決を実行し、新たな問題に気付くといった、一連の問題解決のサイクルにおいて、常に問いが生じているからである。

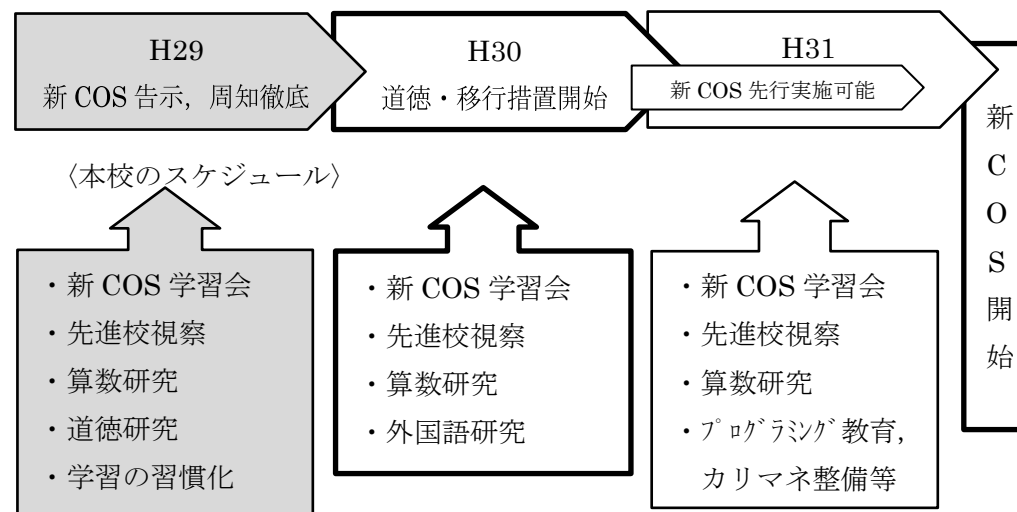
問いを持つ子供を育てるためには、授業を変えなければいけない。各教科等で述べられている「見方・考え方」を用いて課題を解決し、自身の資質・能力が高まっていることを実感できる授業を目指すことが必要である。

このように考え、研究主題と副題を上記のように設定した。

3. 研究の方向性

新 COS 完全実施に向けて、昨年度より3年計画で研究を進めてきた。本年度は研究2年目となる。本年度は、算数と外国語活動・外国語の研究を中心に行う。2教科を並行して研究を行う理由は、新 COS は各教科の観点や見方・考え方が統一されたので、2教科の共通点や相違点等を比較しながら研究していけば、研究の成果が他教科にも転用できると考えたからである。また、研究3年目には、プログラミング教育や、カリキュラム・マネジメントについても研究していく予定である。

〈国のスケジュール〉



4. 研究の内容

(1) 新 COS に記されている「育成を目指す資質・能力」を読み取る

平成 29 年 6 月に文部科学省より出された「学習指導要領解説 総則編, 算

数編，外国語活動編，外国語編」にそれぞれ示されている「育成を目指す資質・能力」を表にまとめてみる。

| 資質・能力 | 「知識・技能」 | 「思考力・判断力・表現力等」 | 「学びに向かう力・人間性等」 |
|------------------|--|---|--|
| 各教科等で育成を目指す資質・能力 | <p><u>新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられながら</u>，各教科等で扱う主要な概念を深く理解し，他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにしていくことが重要。</p> <p>技能についても同様に，一定の手順や段階を追っていく過程を通して個別の技能を身に付けながら，そうした新たな技能が既得の技能等と関連付けられ，<u>他の学習や生活の場面でも活用できるように習熟・熟達した技能として習得されるようにしていくことが重要</u>となるため，知識と同様に「深い学び」が必要。</p> <p>（下線は研究主任による）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・物事の中から問題を見だし，その問題を定義し解決の方向性を決定し，解決方法を探して計画を立て，結果を予測しながら実行し，振り返って<u>次の問題発見・解決につなげていく過程</u> ・精査した情報を基に自分の考えを形成し，文章や発話によって表現したり，目的や場面，状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い，多様な考えを理解したり，<u>集団としての考えを形成</u>したりしていく過程 ・思いや考えを基に構想し，<u>意味や価値を創造</u>していく過程 <p>（下線は研究主任による）</p> | <p>他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や，自己の感情や行動を統制する力，よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは，自分の思考や行動を客観的に把握し認識する，いわゆる「<u>メタ認知</u>」に関わる力を含むものである。こうした力は，社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり，直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。また，多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして<u>協働する力</u>，持続可能な社会づくりに向けた態度，リーダーシップやチームワーク，感性，優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。</p> <p>（下線は研究主任による）</p> |

| | | | |
|-------------|--|--|---|
| 算数における資質・能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解 ○日常の事象を数理的に表現・処理する技能 ○数学的な問題解決に必要な知識 | <ul style="list-style-type: none"> ○日常の事象を数理的に捉え，見通しをもち筋道を立てて考察する力 ○基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見だし，既習の内容と結びつけ統合的に考えたり，そのことを基に発展的に考えたりする力 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり，目的に応じて柔軟に表したりする力 | <ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき，算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 ○数学的に表現・処理したことを振り返り，批判的に検討しようとする態度 ○問題解決などにおいて，よりよいものを求め続けようとし，抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり，表現されたことをより一般的に表現しようとするなど，多面的に考えようとする態度 |
| 外国語活動の資質・能力 | <p>外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</p> | <p>身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p> | <p>外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> |
| 外国語の資質・能力 | <p>外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気づき，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> | <p>コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いた話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p> | <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> |

各教科の解説を見ると、「育成を目指す資質・能力」の3つの柱をベースに各学年の目標及び内容が記されている。一例として算数の解説書を引用する。

| |
|---|
| <p>2 第4学年の内容</p> <p>〔A 数と計算〕</p> <p>A (1) 整数の表し方</p> <p>(1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(イ) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに、それを日常生活に生かすこと。</p> |
|---|

しかし、外国語では、小・中・高で一貫した目標を実現するため、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域の目標の実現を目指した指導を通して、資質・能力を一体的に育成する、としている。外国語活動では「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」の目標を設定している。

いずれの教科においても、新COSを熟読した上で、これらの資質・能力を育成することを目指した授業実践をしていかななくてはならない。

（2）「見方・考え方」についての具体的な姿を探る

新COSで示されている算数科、外国語・外国語活動における「見方・考え方」は、次の通りである。

◎ **数学的な見方・考え方…**

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

算数では、領域ごとに見方・考え方が整理されている。

A 数と計算

| 数学的な見方 | 数学的な考え方 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 数の表し方の仕組みに着目して 数量の関係に着目して 問題場面の数量の関係などに着目して | <ul style="list-style-type: none"> 数の概念について理解し、その表し方や数の性質について考察すること 計算の意味と方法について考察すること 式に表したり式に表されている関係を考察したりすること 数とその計算を日常生活に生かすこと |

B 図形

| 数学的な見方 | 数学的な考え方 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 図形を構成する要素に着目して 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して 図形間の関係に着目して | <ul style="list-style-type: none"> 図形の概念について理解し、その性質について考察すること 図形の構成の仕方について考察すること 図形の計量の仕方について考察すること 図形の性質を日常生活に生かすこと |

C 測定

| 数学的な見方 | 数学的な考え方 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの特徴に着目して | <ul style="list-style-type: none"> 量の概念を理解し、その大きさの比べ方を見いだすこと 目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり比べたりすること 単位の関係を統合的に考察すること 量とその測定の方法を日常生活に生かすこと |

C 変化と関係

| 数学的な見方 | 数学的な考え方 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる2つの数量の関係に着目して ・ 2つの数量の関係に着目して | <ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる2つの数量の変化や対応の特徴を考察すること ・ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べること ・ 2つの数量の関係を日常生活に生かすこと |

D データの活用

| 数学的な見方 | 数学的な考え方 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の問題解決のために、データの特徴と傾向に着目して | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現すること ・ 統計データの特徴を読み取り判断すること |

◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」

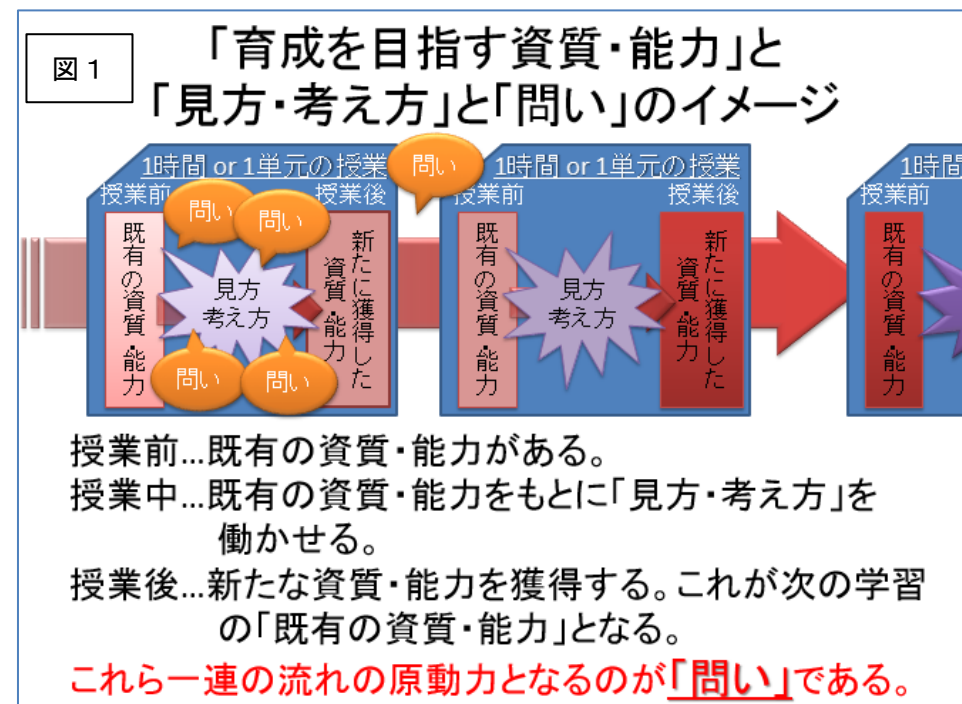
これらの見方・考え方をを用いて資質・能力を身に付ける授業づくりを目指していく。

(3) 「自ら問う」について考える

実際の授業において、子供の思考の様相は実に様々である。算数の授業を

例に挙げると、課題が明らかになった時点で多様な方法で考え、よりよいものを考察する子供もいれば、自力解決の時間になっても解決の見通しが持たず、比較検討の時間に答えが提示されるのを待っている子供もいる。自力解決の時点では考えが持てなかった子供が、比較検討の段階で他者の考えがきっかけとなって思考を始める子供もいる。このように、子供によって、思考の様相も違えば、思考を始めるスイッチはまちまちである。

本研究では、「自ら問う」という言葉を用いていく。「自ら問う」とは、「課題解決に向けて主体的に思考する」こととする。新COSのキーワード「見方・考え方」を包含するが、それよりも広義だと考えている。既習事項や生活経験を問うたり、根拠を問うたり、共通点や相違点、多面性を問うたり、よりよい方法や生き方を問うたりする。図1のように説明ができる。



(4) 「問うべき問い」について考える

「問うべき問い」とは、「授業のねらいを達成するための、最も重要な問い」である。はじめのうちは、教師が「問うべき問い」を問うていくが、常に「問うべき問い」を意識した授業を心がけていけば、次第に子供が「問うべき問い」を「自ら問う」ようになっていく。例えば、子供が自ら「分数÷分数の計算はやったことがないから、今までに習った分数÷整数の計算に直して考えればいい。」と問うような授業である。「問うべき問い」を「自ら問う」子供を育てていきたい。

(5) 「しかけ」について考える

上記(1)～(4)を引き出すためには、教師の「しかけ(=工夫)」が必要である。

- ・導入で主体性を高めるためのしかけ
- ・課題の数値のしかけ
- ・知識を関連づけて覚えるためのしかけ
- ・教科特有の「見方・考え方」を引き出すためのしかけ など

授業研究を通して、どのような場面にどのような「しかけ」があるか、考えていく。

(5) 学習の習慣化について考える

家庭学習、学校で取り組む朝学習について、よりよい方法を探る。

5. 研究の方法

(1) 一人一実践を行う

実践をする上で意識すべきことを次に示す。

① 新 COS に記されている「資質・能力」の育成を目指す

昨年度は、年度当初に各教科の解説が出されていなかったため、各教科の資質・能力の詳細がわからなかったが、今年度は算数科、外国語・外国語活動の解説が出されているので、それを読み、3つの資質・能力の育成を目指していく。

また、昨年度からの継続で、答申に示されていた資質・能力の育成も目指していく。

| 年度 資質・能力 | 1年目 | 2年目 | 3年目 |
|-------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------|
| A 知識技能 | ・知識を関連づけて覚える ・主体的に活用できる技能を身に付ける | ・知識を関連づけて覚える ・主体的に活用できる技能を身に付ける | ・他の学習や生活の場面で活用する |
| B 思考判断表現 | ・課題を自分で見つける ・次の課題を自分で設定する | ・自分の考えを表現し、伝え合い、集団としての考えを形成する | ・意味や価値を創造する |
| C 人間性 | ・メタ認知 | ・メタ認知 | ・協働 |

② 新 COS に記されている「見方・考え方」ができる授業を目指す

前述4(2)に示したとおり、算数の解説編には領域ごとに「見方・考え方」が記されている。また、各学年の最後の方には、「見方・考え方」を引き出すための数学的活動の例示が載っている。それらの数学的活動を通して「見方・考え方」を引き出し、「資質・能力」を育成していきたい。

③ 「自ら問う」授業を目指す

④ 「問うべき問い」を子供が問える授業を目指す

⑤ 「しかけ」を明らかにする

(2) 授業実践シートを作成する

実践を行った後、教師自身が授業評価を行うことが大切である。また、それらを客観的に示し、他者の意見をもとに授業改善を行うことも必要である。どのような「しかけ」をしたか、「問うべき問い」は有効だったか、さらに、子供が「自ら問う」ことができていたかなどを、ビデオや板書、子供のノート記述などの授業記録をもとに、教師自身が自分の授業を「メタ認知」していきたい。

(3) 「校内研究履歴シート」(教師自身が「学習感想」)を書く

本校では、授業後に学習感想を書く活動を取り入れている。本研究で「校内研究履歴シート」を書くのは、学習感想を書くことと同義である。

教師自身も1回ごとの研究を振り返り、メタ認知することができる。また、研究主任は、研究同人の感想や意見、アイデアなどを取り入れながら次回の校内研究をデザインしたり、研究の改善を図ったりすることができる。

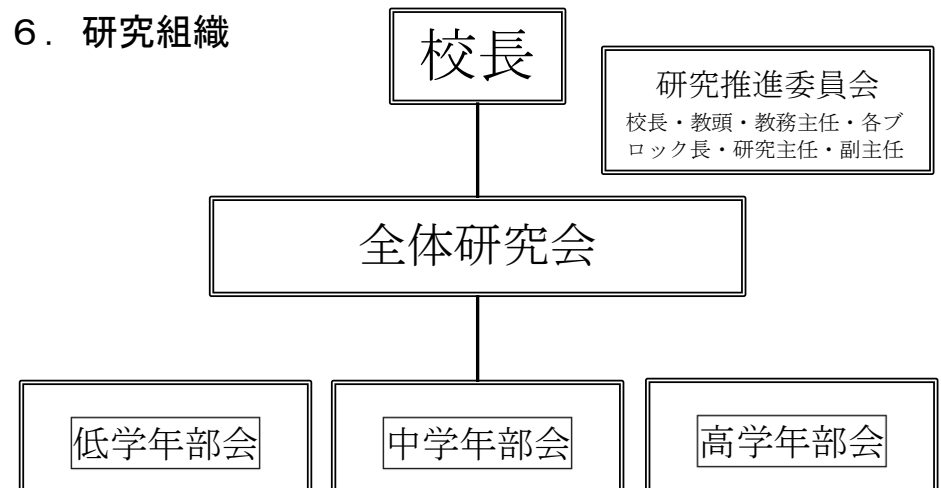
本シートは、山梨大学教職大学院で使用しているものを参考に作成したものである。

本校では初めての試みなので、どのような成果が見られるか楽しみである。

| 国母小学校 校内研 履歴シート | | 氏名 | |
|--|---|-------------------------------|----------------|
| 研究前 | 「資質・能力」「見方・考え方」「自ら問う」という言葉を使って、一つずつ文を作ってください。一つ以上でも構いません。 | | |
| | . | | |
| | . | | |
| | . | | |
| 回 | 月日 | 今日の校内研を通して一番大切だと思ったことを書いてください | 疑問点等あれば書いてください |
| 1 | / | | |
| 2 | / | 14 / | |
| 3 | / | 15 / | |
| 4 | / | | |
| 研究後 | 「資質・能力」「見方・考え方」「自ら問う」という言葉を使って、一つずつ文を作ってください。一つ以上でも構いません。 | | |
| | . | | |
| | . | | |
| | . | | |
| ※ここは、一年間の校内研が終わった後に書いてください。 | | | |
| 一年間の校内研をふり返って、何がどのように変わりましたか。また、そのことについて、あなたはどのように思っていますか。考えたこと、感じたこと、感想など、自由に書いてください。 | | | |

▲校内研履歴シート

6. 研究組織



7. 研究経過

| | |
|------------------|--|
| 4/20 (金) | 今年度の研究について 研究内容の検討 |
| 5/11 (水) | 外国語・外国語活動学習会「見方・考え方」 (指導主事招聘予定) |
| 6/20 (水) | 研究授業① 5年2組算数科研究授業(角田) 授業研究会&学習会(小池孝二 指導主事招聘) |
| 8/7 (火) | 【全体】1学期の復習→2学期の研究授業に向けて |
| 8/20 (月) 3校合同 | 【午前】全国・県の学調の分析→課題の洗い出し 【午後】合同学習会 |
| 9/12 (水) | 授業実践シートについて、学習会(各種HPの活用法) ブロックごと指導案検討 |
| 10/31 (水) | 研究授業② 1年3組 算数科研究授業(阿部教諭) 授業研究会(岩澤宏行 指導主事招聘) |
| 11/7 (水) | 南西中, 上条中 英語授業参観, 5校合同研究会 (南西中&石田小&国母小, 上条中&大国小&国母小) |
| 11/28 (水) | 研究授業③ 4年2組 外国語活動研究授業(佐藤教諭) 授業研究会(古家貴雄 教授招聘) |
| 1/17 (木) | 5年2組外国語活動提案授業(角田) 授業研究会(南西中, 上条中 3校合同) |
| 1/23 (水) | 「授業実践シート」による振り返り, 研究のまとめア ンケート |
| 2/6 (水) | 研究のまとめ, 来年度に向けての学習会 |

【参考・引用文献】

- ・文部科学省(2017,6)「小学校学習指導要領解説 総則編」
- ・文部科学省(2017,6)「小学校学習指導要領解説 算数編」
- ・文部科学省(2017,6)「小学校学習指導要領解説 外国語編」
- ・文部科学省(2017,6)「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」
- ・文部科学省 中央教育審議会(2016,12)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)」
- ・山梨県教育委員会(2016)「山梨県学校教育指導重点」
- ・甲府市教育委員会(2016)「甲府スタイルの授業」
- ・山梨大学教職大学院 授業履歴シート